



笑顔とやる気いっぱいの七中 生徒自らが常に鍛え続ける七中

# 七中だより



第 5 号 中野区立第七中学校《学校だより》

令和2年6月15日  
TEL 03-3389-4171

## わかばの季節

校長 池田 俊一

緑が目眩しく清しい季節がやってきました。無事分散登校の2週間を終え、クラス全員が今年度初めて一斉登校できる6月15日を迎えました。ここからが本番です。仲間との生活の中で「笑顔とやる気いっぱいの七中、生徒自らが常に鍛え続ける七中」を目指しましょう。この季節、私は気が付くと校歌「わかば、わかき」を口ずさんでいる自分があります。音楽の授業での歌の指導はまだ本格実施できませんが、本校校歌の沿革について、是非伝えたいのです。新入生には読みこんで欲しい内容であり、2・3年生も読んで思い出してください。七中生が七中生である大切な宝の一つと考えているものです。

### 校歌「わかば わかき」の沿革

昭和28年に校歌を制定したいという声が高まった。PTA 役員、本校職員及び生徒代表が委員会を結成、相談の結果有名歌人に歌詞を依頼せず、一般、父兄、職員、生徒の中より募集することになった。

審査委員の無記名投票の結果、満票で本校職員「村松アサ」の歌が当選した。

以下、村松の作詞の時の気持ちを記して参考に供する。

作者は「かぜ」で二日程床についていた時、つれづれにその床の中で作りあげたものである。この地域に建てられている区立の中学校であるので「われらここに集いてぐんぐん育たん」とたくましい子供の成長力をたたえた。

「わかば」とは「unfolded leaves」という意味で拳を固く握った「わかば」である。みどりのひろがった若葉ではない。それが、この学校で拳をひろげ美しい美しい若葉になってゆく時代が中学だと考えた。それから、

「義務教育」は英才教育ではない。人格形成が目的であるから、「押しのける 気持ちしりぞけ、睦みあい敬い合って」「よく運動し、よく遊んで、心を打ちあけあい、天よりの何者か尊いものを心をあけて受けとめ、生き生きとナイーブに生きて頂きたいと願いつつうたいました。

曲をつける方は、さぞつけづらいであろうに。とも申し訳なく思いました。

それから、「あめつちの正気を受けて、はりきって」は非常にむずかしいと云われるが、ここが私の key point なので、ここは直せなかった。

学校は「道場」で「今日も明日も」ひたすら努力、又努力あるのみなので、それを歌った。全部で三章だが、私は一気に第一章、第二章を書き第三章はあとになってつけたので初めの二章のみでよいと考えています。

曲は PTA 田村甲子郎氏の骨折りで、「折田 泉」氏がつけて下さり「石井桃子」氏が舞踊の振り付けをして下さった。

いかがでしょうか。作詞者が14年間もの間本校で教鞭を取っていた先生であり「わかば」ひとつにも強い思いがこもっていたと分かったとき、私は胸が熱くなると同時に、土地に生きる生徒の気質に根ざしたものだ、と思いました。校歌が出来てから66年の月日が流れましたが、今も愛され歌われている七中の校歌に改めて意味の深さを感じるものでした。

次回、全校生徒が大きな声で歌う日は、いつになるかまだまだ分かりませんが、そのときを心待ちにできることを願います。

